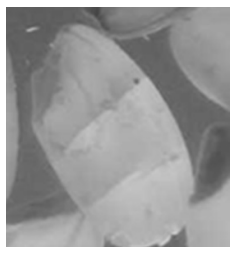
営農情報 第7号

令　和　５　年　８　月　２５　日
アルプス農協管内農業技術者協議会

○JAアルプス管内のコシヒカリの出穂期は、7月 30 日と平年より1日程度早くなりました。
　出穂期以降の 20 日間の気温は平年より高く推移しました。
○**刈遅れと急激な乾燥を防止することで、胴割米のない高品質なアルプス米に仕上げましょう。**

1　コシヒカリの適期刈取り

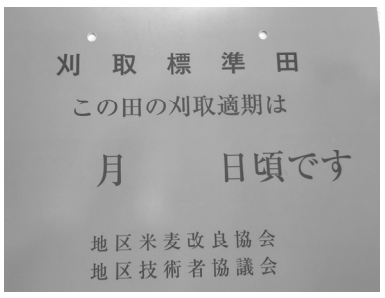
【YouTube】
16 収穫作業


＜胴割米＞

・収穫時期は籾の黄化程度で判断し、**籾黄化率 80%を目安に刈取りを始め、適期内に刈取りが終了する**よう努めましょう。
・砂壌土や枯上がりの早い圃場から刈り始め、**刈遅れによる胴割米の発生を防ぎましょう。**

【コシヒカリの出穂期別刈取開始時期の目安】

出穂期	刈取開始時期 籾黄化率　80%
7月 28 日	**8月31日頃～**
7月 30 日	**9月2日頃～**
8月1日	**9月5日頃～**



地域により成熟期に差があるため、必ず「刈取適期表示札」を参考にして下さい。

2　適切な乾燥調製で胴割米の発生防止

【YouTube】
17 乾燥作業

【YouTube】
18 調製作業

○毎時乾減率 0.8%以下でゆっくりと乾燥し、玄米水分 14.5～15.0%に仕上げましょう。

【乾燥作業の注意点】
①水分ムラを小さくするため、２～３時間の通風乾燥を行う。
②送風温度を機種標準より下げ、ゆっくり乾燥する。
③籾水分 17%程度で一度乾燥を止め、半日程度休止した後に再乾燥する。
④籾水分が 17%以下になったら、手動水分計でこまめに水分をチェックする。
⑤下表の青米の混入状況に応じた乾燥機停止時の玄米水分で乾燥機を停止する。

【乾燥機停止水分の目安】

玄米 100 粒中の青米粒数	乾燥機停止時の玄米水分	乾燥機停止後の水分変化
5粒以下	15．0～15．5%	乾く(－0．5%)
6～10 粒	14．5～15．0%	変　化　な　し
11粒以上	14．0～14．5%	もどる(＋0．5%)

3　カントリーエレベーターやライスセンターからのお知らせ

・平日利用助成、遠隔地利用助成、早生・晩生利用助成、大口利用助成の各種利用助成制度を利用しましょう。
・コシヒカリの平日利用助成の設定日は**９月４日（月）～８日（金）、９月 11 日（月）～15 日（金）**です。

生産記録簿は、出荷時や乾燥調製施設利用前にJAに提出して下さい

令和５年JAアルプス夏期懇談会資料11、12ページをご参照下さい。

４　土づくり対策

【YouTube】１土づくり

高品質・安定生産に向け、
この秋「土づくり」に取組み
ましょう！

「秋の土づくり運動」　９月 15 日～11 月 15 日

健全な土壌は、高品質アルプス米の生産に必要不可欠です。
次年度の米づくりのため、秋からしっかり土づくりを行いましょう。

（１）土壌改良資材の継続的施用

ＪＡアルプス管内の土壌の特徴は、土壌ｐＨが低く（酸性化）、ケイ酸分が不足しています。
不足分を供給できる土壌改良資材を施用しましょう。

【土壌改良資材の標準施用量と施用効果】

資　材　名	10a当たり施用量	ケイ酸分(%)	アルカリ分(%)	施　用　効　果
粒状ケイカル	200　kg	30.0	45.0	pH矯正、根腐れ抑制、秋落ち防止、有機物の分解促進
元　　気	100　kg	24.0	32.0	総合的土づくり資材、ケイ酸が流亡しないので秋施用可能
シリカロマン	100　kg	25.0	45.0	酸度矯正に有効、ケイ酸・リン酸・苦土・鉄が一度に散布可能
シンキョーライトP	100　kg	（66.1）	―	ケイ酸・加里・鉄等の天然ミネラルが豊富、保肥力改善効果

（２）秋耕しと排水性の確保

・稲わらやもみ殻のすき込みを、気温の高い 10 月中に行い**腐熟を促進**しましょう。
・**秋耕後は排水溝を設置**して、圃場の水はけを良くしましょう。
・貴重な有機資源である**稲わらやもみ殻は、必ず土壌に還元**しましょう。
・秋耕しをした上で春耕しをすることにより、**深耕が可能**になります！

（３）有機物の施用

・有機物の施用により、土壌の腐植を増やし、保肥力を高めましょう。
・稲わらのすき込みに加え、**特に腐植の少ない圃場では堆肥を積極的に施用**しましょう。
・堆肥の確保が困難な場合は、**発酵鶏ふんの施用や緑肥作物の栽培・すき込み**を行いましょう。

【緑肥作物（冬作物）】

作物名	播種時期	10a 当たり播種量
ヘアリーベッチ	水稲刈取り後～10 月中旬	３～５kg
ヘアリーベッチ＋ライ麦	水稲刈取り後～10 月中旬	ヘアリーベッチ：２kg ライ麦：５kg

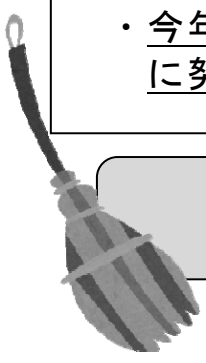
【堆肥施用の目安（秋施用の場合）】

資材名	10ａ当たり施用量
発酵鶏ふん	100～150kg
牛ふん堆肥	１～２ｔ
豚ぷん堆肥	１～２ｔ

＜緑肥作物栽培上の注意点＞
○ヘアリーベッチは肥料不要です。ヘアリーベッチ＋ライ麦の場合は、
　ライ麦の生育量確保のために、窒素５kg/10ａを全層施肥してください。
○初期の湿害に弱いので、排水対策を実施してから播種しましょう。
○播種時期が遅れると生育量の確保が困難になるため、**出来るだけ早い時期に播種**しましょう。

○「ごま葉枯病」　～葉にごま粒状の病斑がでます～

・ごま葉枯病の発生は、土壌条件や稲体の栄養条件と関係が深く、**生育後半に稲体活力が低下した場合や、土壌養分である「ケイ酸」、「カリ」、「鉄分」などが少ない圃場で多発**します。
・**今年度発生が見られた圃場では、積極的に「土づくり」に取組み、ごま葉枯病の発生抑制に努めましょう。**



～農作業機械で道路を汚したら、必ず掃除しましょう～